

〔海外レポート〕

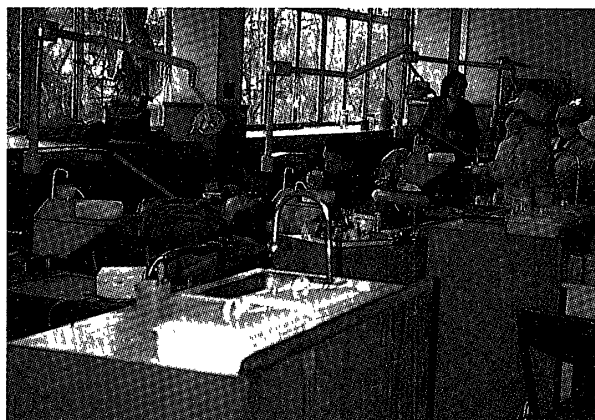
中国歯科医学，歯科医療事情
—上海鉄道医学院歯学部の見聞から—

小鷲悠典，坂口邦彦，平井敏博

此の度（3月25日から5泊6日），口腔保健協会の事業「中国上海鉄道医学院附属中日友好口腔医学中心」のため，上海市に出張いたしました。上海は成田からわずか3時間余り，鹿児島市とほぼ等緯度のため，3月下旬といえば春爛漫，まさに「江南の春」と思いきや，上着の下にVネックのセーターを，さらにはレインコートを着込む程の寒さでありましたが，それを補って余りある程の「熱烈歓迎」を受けました。

本学院歯学部は，1985年9月に上海市のほぼ中心に設立され，昨年，第1期生が卒業したばかりの新しい歯学部です。学生定員は1学年30名（教育期間は5年間）です。学部には，解剖・生理，組織・病理，口腔内科（歯内療法，歯周病学講座に相当し，口腔粘膜疾患もここに含まれるとのこと），口腔外科，修復（歯冠修復および補綴学講座に相当），矯正，放射線の7講座があり，近々に材料学講座を設立予定とのことでした。なお，中国には医師法と歯科医師法による処置における境界領域に制限はなく，口腔外科（歯槽部外科と顔面外科）では形成外科，整形外科領域の手術をも頻繁に行っているとのことでした。

カリキュラムは，2年3ヵ月の基礎科目，1年の一般医科と臨床基礎の科目があり，臨床実習として3ヵ月ずつ口腔内科，口腔外科，補綴科を，1.5ヵ月ずつ一般内科，一般外科，放射線，矯正を履修するとのことでした。臨床実習には



ケース制が採用されており，抜歯50～80本，充填30本，全部床義歯2症例，部分床義歯6症例，冠橋義歯15～20本，歯内治療30本，歯周治療2症例，矯正1症例とのことでした。非常にハードなノルマと思われますが，診断から処置までの全てを一人で行うのか否かは定かではありません。

我々は，それぞれの講義による本邦の歯科診療の紹介と質疑応答および外来見学を行いました。見聞した限りにおいては歯科医学，歯科医療水準の低下は否めず，今後の進歩が望まれるところです。このためにも，我が東日本学園大学歯学部スタッフが中国の歯科医師と共同で診療を行いながら知識技術の交換を行うことは，友好親善を兼ねた意義深いことと思われます。

最後に，今回の機会をお与え下さいました皆様と，「熱烈歓迎」を下さいました上海鉄道医学院の皆様に厚く御礼申し上げます。